

問い

7月30日付全国農業新聞に新潟県の事例が掲載されており、直接行かなくてもスマホによる遠隔操作で、給排水栓の自動開閉ができるシステムもある。今後、上流地域としての調査研究を進めていくべきだと思うが。

答え

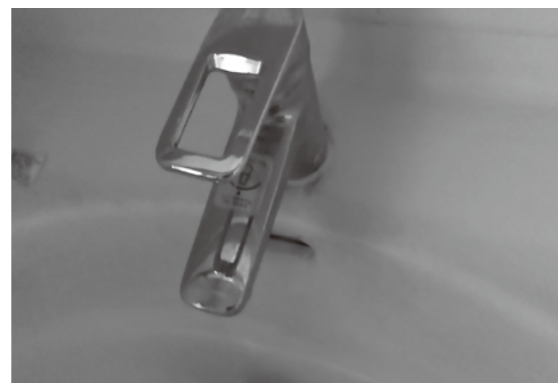
今回の豪雨の際、発地の構造改善をしたエリアの確認をしたが、現に遊休農地で水が結構貯まっており、現在でも田んぼダムに近い機能を果たしているため、構造改善のエリア自体で溢水や越水が認められなかった。現在、十分機能しているため、用水路、排水路、住宅地と河川との高低差をなくし、排水機能が向上する形で実施していきたい。

「学校、保育園の手洗い場の非接触型自動水栓の導入について」を質問!!

問い

新しい日常の感染防止対策として、最も感染リスクが高い場所が手洗い場である。特に学校や保育園では不特定多数のお子さんが蛇口を触るので、消毒や石鹸で洗ったとしても触ることによってリスクは高くなり、以前より保護者の方から、心配だと御相談を受けていた。

- ①新築された中学校では既に非接触型自動水栓になっているが、小学校や保育園での現状は。
- ②県内の学校でも非接触型自動水栓に切り替えてきている。町の自動水栓に対する考えは。
- ③新規交換が必要なく、既存のものに一般の方でも簡単に取り付けができる自動水栓がある。これは、単三電池4本で約10年間、停電の影響はなく、節水にもなるが導入は。



答え

- ①保育園は、新型コロナウイルス感染症対策として全園の保育室の手洗い場の1カ所自動水栓を既に取り付けてある。小学校の手洗い場は、現段階で非接触型の自動水栓は設置していない。
- ②③今後については、設置されている蛇口の形状が様々であるため、自動水栓が取り付けられる蛇口かを調査した上、学校と協議しながら必要な箇所に設置して参りたい。

公明新聞の御購読をお願いします。

(日刊1ヶ月1,887円、日曜版293円 お得な電子版は日刊月額1,500円、日曜版250円です!)

お問い合わせは→川島さゆり TEL 080-9804-7656 までお願いします

さゆり通信

発行：川島さゆり 軽井沢町大字長倉 4280-5 TEL 46-2135

ごあいさつ

新型コロナワクチン接種も高齢者の希望接種も進み、若年層の接種も始まっています。(私もおかげさまで9月26日2回目終了しました) 様々な事情で接種ができない方もいらっしゃいますので、ご配慮を宜しくお願い申し上げます。

軽井沢町のワクチン接種も10月10日(1回目)、31日(2回目)の予約もちまして、中央公民館での集団接種は終了となります。10月からは限られた医療機関での接種体制となり、令和4年2月28日終了を目途に、無料接種を行って参りますので宜しくお願いします。(詳細は町ホームページにて確認して下さい)

さて、9月会議は皆様の税金がどのように使われたのかを検証する場でした。長年、皆様から頂いたご意見ご要望を問い質せたものもありましたので、この号で記載させていただきます。

大変な時ではありますが、今後とも皆様のご指導ご鞭撻宜しくお願い申し上げます。



2021年9月会議 一般質問から

「町の防災減災対策について」を質問!!

新しい避難警戒レベルについて

(新) 避難警戒レベル				
危険度	警戒レベル	住民が取るべき行動	町の対応	気象庁発令
高い ↑ ↓ 低い	5	既に災害発生・切迫命を守る最善の行動(垂直避難もあり)	緊急安全確保	氾濫発生情報・大雨注意警報等
	4	災害の恐れ高い全員が速やかに危険な場所から避難	避難指示	氾濫危険情報・土砂災害警戒情報等
	3	災害の恐れあり高齢者や障がいのある方(家族も避難)	高齢者等避難	氾濫警戒情報・洪水警報等
	2	気象状況悪化ハザードマップで避難行動を確認・避難準備(町ホームページで確認)	—	洪水注意報・大雨注意報等
	1	今後気象状況悪化の恐れ(町ホームページで確認)	—	早期注意情報

問い

熱海市では、「避難指示」であるレベル4の発出ができなかったが、当町においては、夜中でも躊躇なく発出はできるのか。

答え

土砂災害の警戒レベル4、避難指示の発令基準の設定例

- 1、土砂災害警戒情報が発令された場合
 - 2、土砂災害の危険度分布で、非常に危険、薄紫となった場合
 - 3、警戒レベル4、避難指示の発令が必要となるような強い降雨を伴う前線や台風等が夜間から明け方に接近、通過することが予想される場合
→この場合は、夕刻時点で発令!
 - 4、警戒レベル4、避難指示の発令が必要となるような強い降雨を伴う台風等が立ち退き、避難が困難となる暴風雨を伴い、接近、通過することが予想される場合
→この場合は、暴風警報の発表後、速やかに発令!
 - 5、土砂災害の前兆現象、山鳴り、湧き水、地下水の濁り、溪流の水量の変化等が発見された場合
- 1・2・5に該当する場合は、夜間や未明であっても躊躇なく警戒レベル4避難指示を発令する**

問い

TV、ラジオ、スマホ等で取れる情報や気象庁発令等、細心の注意を払い、まず動いてみるのが大事。防災係作成のレベル1～2の間の住民確認表や新警戒レベル表使い自主防災組織が核となって学ぶことが大事。実際、お盆に土砂災害警戒レベル3が発出されたが、知らない方が多かったので、平時にこのような学習を推進してはどうか。



答え

自主防災組織の勉強会等あれば、防災係も積極的に参加をし、新情報の周知に努めていく。

町の大規模盛土造成地について

問い

熱海市の土石流の一因が人工的盛土だった。当町でも2019年に大規模盛土マップを作成したが、盛土造成地が22カ所もある。居住者や新規土地購入者に対し、大規模盛土造成地の周知徹底は。



答え

2019年より町ホームページで国が行った大規模盛土造成地の調査報告、町内22カ所の大規模盛土造成地マップを公開。居住者や新規土地購入者に個別に周知はしていない。



イラスト：斉藤暁雄

問い

ここは盛土造成地だという事は知らないという事だが、町の対応はこれで良いのか。マップを見なさいということか。

問い

2次調査終了後、住民に必要ながあれば報告するという事だが、産業廃棄物の盛土は町にはないのか。又2次審査結果はいつ頃出るのか。

答え

マップ公開は、土地所有者等に対し身近な大規模盛土造成地の存在を知らせ、防災意識を高める事を目的としている。
現在公開の大規模盛土造成地は、国庫補助事業により危険性の有無と危険性が確認された場合の対応を検討する為、2次調査として、現地調査及び優先度評価を進めており、危険性が認められた場合は、地盤調査の必要性の検討実施。

2次調査委託業者の見解では、他自治体では、危険性がある所は既に住民から異常通報がある事が多い。当町ではそのような事例がなく、現段階の分析では比較的安全ではないかという事だった。

個別周知は、2次調査結果とその後の対策が決定していないので、過度に不安をあおる事なく、危険性の有無について調査結果が出た時に周知していく。

答え

産業廃棄物の有無については、調査をしていないので、現段階ではわからない。
調査結果の周知は、今年度2次調査を実施、危険性があるかどうかの優先度調査の結果が出来次第、問題箇所があれば来年度以降調査をし、危険性が判定された所は、地盤調査を実施し、結果を長野県と共に公表していく。

田んぼダムについて

問い

以前一般質問した「信濃川水系、千曲川、緊急治水対策プロジェクト」で、流出抑制の取り組みの1つである、「田んぼダム」のその後を聞く。
(田んぼダムとは、田が本来持っている貯水機能を活用し、大雨時に田に一時的に雨水を貯め、排水路や河川への流出抑制をし、洪水被害を軽減する取り組みの事で、農家が簡単に始められる地域防災の取り組みです)
台風19号災害の時に浸水の恐怖があった地域の皆様から御相談を頂いた。当町は、田は少ないので遊休農地を活用し、浸水により命や家屋財産の危険性のある際、有効と考えるが研究結果は。

答え

水田管理者である営農者の理解と協力が前提。事前準備として畦のかさ上げや調整板設置が必要で、山間部で補助整備のされていない田では、排水溝が簡単に調整できないものもある。農業委員の聞き取りでは、台風時期に水を貯めてしまうと稲刈り時にぬかるみ、稲刈り機がはまる恐れや畦の決壊の可能性もあり難しいとの事。
大雨時の水門開閉の際、用水に転落する危険性もあり、営農者の協力は得られにくい。
遊休農地はそもそも耕作が大変で放置をしている所に、更に畦と調整板を作るというのが、農家の方の理解は得られにくい。
町では他町村とは異なり、独自で長年、自然保護対策要綱で、宅地や開発地において雨水の敷地内浸透処理規定を設け指導徹底を図っており、町内河川は大雨時の負荷が大幅に軽減。近年、護岸を越えての溢水、越水は発生していない。
主な被災内容は、床下・床上浸水で、こうした区域は、河川との高低関係で浸水をしている状況なので、対策として有効な排水路の確保を行う。

田んぼダム

